

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	企業誘致業務			基本目標	企業誘致活動の推進				
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	日高 茂利	評価者	壺岐 昌敏	開始年度	H18	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	新規進出企業を誘致し、町経済の活性化や雇用の創出、自主財源の確保を図る。							
	対象(誰を・何を)	町外企業							
事業の内容	町内の工場跡地等を候補地として、企業コーディネーターによる企業訪問等のPR活動や情報収集を行うとともに県と連携を図りながら新規進出企業の誘致活動を行う。また、誘致した企業の継続的な企業活動を促すための企業訪問、商工会議所など各種団体との連携強化や町人会の設立などを活用した積極的な情報収集を行う。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		2,721	千円	25年度予算額		1,919	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	報償費	600	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.08	人	
	旅費	509	千円		県支出金		千円	職員人件費	H24		572	千円
	需用費	262	千円		地方債		千円		H25		582	千円
	役務費	1,150	千円		一般財源	1,919	千円	当事業の金銭的成本	H24		3,293	千円
	補助金	200	千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25		2,501	千円
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	近畿高鍋会運営助成金						
	補助対象	近畿高鍋会			補助金要綱	近畿高鍋会運営助成金交付要綱						
	24年度	補助額	200	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	100	千円	終期	平成26年度	
		交付団体の決算額	200	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		決算額に占める割合	100	%	H23は町人会設立準備委員会補助金							
繰越額		-1	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	新規企業の誘致	東京在住の企業誘致コーディネーターを配置し、首都圏における情報収集や企業誘致活動の体制を整え新規企業の誘致を行った。								
	2	町人会の設立	町人会を設立した。								
	3										
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	企業訪問、協議回数	企業誘致コーディネーター等を活用し企業本社や関係機関の訪問活動を実施。								
	2	企業誘致パンフレットの配布	企業誘致パンフレットを作成し配布した。								
	3										

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項	
成果指標	新規企業の誘致	目標値	1	1	1		
		実績値	0	1			
		達成率	%	0.0%	100.0%		
	町人会の設立	目標値	団体	1	1		1
		実績値		0	1		
		達成率	%	0.0%	100.0%		
活動指標	企業訪問、協議回数	目標値	回	2	2	10	
		実績値		2	10		
		達成率	%	100.0%	500.0%		
	企業誘致パンフレットの配布	目標値	部	20	100	100	
		実績値		30	50		
		達成率	%	150.0%	50.0%		
		目標値	回				
		実績値					
		達成率	%				

事務事業名	企業誘致業務	担当課(局)	政策推進課
-------	--------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	町経済の活性化や雇用創出を図るため企業誘致活動は町が主体的に取り組むべきである。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	目的達成には継続的な誘致活動が不可欠であり、今後も積極的な情報収集と地道な企業訪問活動が必要である。
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	企業誘致コーディネーターの配置や近畿地区の町人会設立により遠隔地での誘致活動や情報収集について効果が上がっている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	0	企業誘致に関しては町の施策的要素が大きく町民との協働の可能性は低い。
自己評価点		14	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	1	高鍋の発展に寄与することを目的とした町人会運営に対する補助事業であり、企業誘致をはじめとする都市部での情報収集等が不可欠な事業において遠隔地から情報の提供を受けることができる。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		3	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性																									
			事業の方向性	コスト																							
◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	積極的な情報収集と地道な企業訪問など継続的な誘致活動とともに、町人会等地縁による誘致活動も重要となる。引き続き継続した情報収集と企業訪問や新たな地域での町人会の結成と育成を図るべきと考える。	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">廃止 縮小 維持 拡充</td> </tr> </table>	拡充			○		維持					縮小					廃止					廃止 縮小 維持 拡充				
拡充			○																								
維持																											
縮小																											
廃止																											
廃止 縮小 維持 拡充																											

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と地道な企業訪問 ・担当課の方針どおり。 ・他の高鍋会育成にも力を入れて欲しい。 ・24年度企業1社・近畿高鍋会設立でき成果大である。 ・新たな町人会の設立に全力を挙げて取り組んでもらいたい。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	拡充	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	スポーツキャンプ・各種大会の誘致		基本目標	スポーツランドの推進					
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	日高 茂利	評価者	壱岐 昌敏	開始年度	H18	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	町経済の活性化、スポーツ・観光の振興							
	対象(誰を・何を)	町外の社会人や大学などのスポーツ団体							
事業の内容	温暖な気候を活かし、関東方面の社会人や大学などのスポーツ団体を対象にキャンプ誘致や全国高校総体や全国スポレク祭などの開催実績がある総合体育館をアピールし、新たな大会の誘致を行うため機会があるごとに企業訪問やPR活動を行う。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額	306	千円	25年度予算額	1,629	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%				
支出の内訳	旅費	118	千円	財源内訳	国庫支出金		事業従事者数	H24	0.08	人	H25	0.08	人
	需用費	127	千円		県支出金		職員人件費	H24		572	千円		
	借上料	61	千円		地方債			H25		582	千円		
			千円		一般財源	1,629		千円	当事業の金銭的成本	H24		878	千円
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25		2,211	千円	
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	スポーツ合宿補助金							
	補助対象	桐蔭横浜大学硬式野球部			補助金要綱	高鍋町スポーツ合宿補助金交付要綱							
	24年度	補助額	300	千円	補助の形態	臨時的補助	H25年度補助額	0	千円	終期	平成26年度		
		交付団体の決算額	7,738	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		決算額に占める割合	6	%	事業拡充:コスト拡充 ◎練習場も確保できたので、有効誘致を図っていただきたい。(H23) ◎グラウンドを利用した誘致には限りがあるので、総合体育館も利用したキャンプ誘致を進めていただきたい。								
繰越額		0	千円	◎スポーツキャンプによる町内の経済に与える波及効果は大きいので、今後も宿泊キャンプの誘致を積極的に展開してもらいたい。(H23)									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	キャンプチーム数	町経済の活性化を図るためキャンプ誘致活動を行い、社会人・大学の硬式野球部2チームが春季キャンプを実施した。									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	キャンプ団体訪問	当町でのキャンプ実績のある企業・大学に対してフォローアップ訪問を行った。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	キャンプチーム数	目標値	3	3	3	
		実績値	3	2		
		達成率	%	100.0%	66.7%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	キャンプ団体訪問	目標値	3	3	3	
		実績値	3	3		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋城灯籠まつり補助事業		基本目標	観光イベント等の推進					
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	日高 茂利	評価者	壱岐 昌敏	開始年度	H13	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	まつりの開催により町のPRと交流人口の拡大及び地域の活性化に資する。							
	対象(誰を・何を)	高鍋城灯籠まつり実行委員会							
事業の内容	高鍋城灯籠まつりの開催								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額	3,380	千円	25年度予算額	2,880	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%				
支出の内訳	補助金	3,380	千円	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.08	人	H25	0.24	人
			千円	県支出金		千円	職員人件費	H24			572	千円	
			千円	地方債		千円		H25			1,746	千円	
			千円	一般財源	2,880	千円	当事業の金銭的成本	H24			3,952	千円	
			千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25			4,626	千円	
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋城灯籠まつり補助金							
	補助対象	高鍋城灯籠まつり実行委員会			補助金要綱	高鍋城灯籠まつり補助金交付要綱							
	24年度	補助額	3,380	千円	補助の形態	奨励的補助	H25年度補助額	2,880	千円	終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	4,206	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		決算額に占める割合	80	%	自主財源の強化に努めること。(H22)								
繰越額		210	千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	来場者数	町のPR、交流人口拡大及び地域活性化を目指した。来場者数は平成23年度並みとなった。									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	実行委員会開催回数	準備委員会を2回、実行委員会(企画部会、全体会)を7回開催し、高鍋城灯籠まつりを開催した。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	来場者数	目標値	56000	58000	58000	
		実績値	56000	58000		
		達成率	100.0%	100.0%		
	目標値					
	実績値					
	達成率					
活動指標	実行委員会開催回数	目標値	7	7	7	
		実績値	7	7		
		達成率	100.0%	100.0%		
	目標値					
	実績値					
	達成率					

事務事業名	高鍋城灯籠まつり補助事業	担当課(局)	政策推進課
-------	--------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	町内外からの来訪者を対象とした本町で最大のイベントといえる。同様のまつりは他課では行っておらず、高鍋町における秋の恒例イベントとして広く認知されている。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	にぎわいの創出に一定の効果を得ているほか、町のPRにも有効である。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	補助金への依存度が高いため自主財源の確保が必要である。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	灯籠まつり実行委員会だけでなく、各種団体にも準備作業等で協力いただいており、既に協働が確立されている。
自己評価点		15	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	広く全町民を対象としている事業である。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	高鍋町を代表するイベントとして定着し、町民との協働も確立されつつある、更なる盛會を期待するものであり。町のPR、交流人口の拡大、地域の活性化、協働の推進を図るためにも最小の経費で継続が必要と考える。		○		
	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等					
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源の強化(広告等)に努めて欲しい。 事業の内容と成果を、しっかり出していくことが必要。 町民との協働によるまつりとして定着してきたが、実行委員の広がりにも努め、スムーズな実行委員の世代交代を期待する。 	外部評価委員会 評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		縮小	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	町内巡回バス運行事業			基本目標	公共交通の充実			
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	河野 真史	評価者	壺岐 昌敏	開始年度	H13 年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	移動手段の確保とともに温泉利用者の増加に資する。						
	対象(誰を・何を)	交通弱者(主に高齢者)						
事業の内容	町内各地域と高鍋温泉めいりんの湯を結ぶコミュニティバスを運行する。平日(火曜日から金曜日まで)に、1日2路線を運行(全4路線)。							
事業の根拠法令・要綱等		道路運送法						

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		2,926	千円	25年度予算額		2,930	千円	25年度予算額中一般財源の割合		71.3	%			
支出の内訳	委託料	2,926	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.20	人	H25	0.12	人
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24	1,429			千円	
			千円		地方債		千円		H25	873			千円	
			千円		一般財源	2,090	千円	当事業の金銭的成本	H24	4,355			千円	
			千円		運賃収入	840	千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25	3,803			千円	
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名									
	補助対象				補助金要綱									
	24年度	補助額		千円	補助の形態		H25年度補助額		千円	終期				
		交付団体の決算額		千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
決算額に占める割合			%											
	繰越額		千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	利用者数	交通の利便性向上及び高鍋温泉めいりんの湯の町内客の確保を目指したが、1月に町内巡回バスの実証運行を行ったこともあり、利用者数は減少した。									
	2											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	運行回数	火曜・木曜に2系統、水曜・金曜に2系統の運行を基本とし、高鍋温泉めいりんの湯の営業に合わせて運行日を変更して運行した。									
	2	高鍋町地域公共交通会議開催回数	町内巡回バスをはじめとする高鍋町の公共交通について、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議する。									
	3											

◎目標達成状況

成果指標	利用者数	目標値	人	12,000	12,000	9,120	25年度の目標値9,120人は、平成25年度高鍋町生活交通ネットワーク計画で定めた目標値。
		実績値		9,871	8,681		
		達成率	%	82.3%	72.3%		
	高鍋町地域公共交通会議開催回数	目標値	回	-	-	3	平成24年度の実績値は、1月に行った実証運行の運行回数を除いた値。
		実績値		-	5		
		達成率	%				
運行回数	目標値	回	-	416	416		
	実績値		412	394			
	達成率	%		94.7%			
高鍋町地域公共交通会議開催回数	目標値	回	-	-	3		
	実績値		-	5			
	達成率	%					

事務事業名	町内巡回バス運行事業	担当課(局)	政策推進課
-------	------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数		評価の理由
		自己評価		
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2		町内の交通弱者(特に高齢者)が温泉を利用するために必要な事業であり、廃止による影響は大きい。利用者のほぼ全員が温泉利用者であり、コミュニティバスとは言い難い状況はある。平成24年度は国の補助事業を活用し「高鍋町地域公共交通総合連携計画」を策定。平成25年度は路線バスとの結節の強化のため、10月から高鍋バスセンターに乗り入れるようルート及び時刻表を変更する。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2		
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2		
	◎事業廃止による影響があるのか	2		
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2		温泉利用者には有益な事業であり、温泉の町内容の確保にもつながっている。巡回バス利用者数は、事業開始以来平均して年10,000人程度で推移しており、年々増加傾向であったが、平成21年度以降は年々減少している。今後は、他の公共施設・医療機関など地域住民の交通の利便性向上を目的に、高鍋町地域公共交通会議において民間事業者と慎重に協議を重ねながら、路線の見直し等を行っていく。
	◎すでに目的は達成されていないか	2		
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1		平成19年度に運行路線を5路線から4路線に減少し経費節減を図った。平成24年度に策定した連携計画をもとに、国の補助事業の活用を検討しながら、利用促進を図っていく。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1		
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	0		制度的には、NPO等による福祉有償運送も可能ではあるが、安全性の面から原則一般乗合旅客運送事業者(宮交タクシー株は免許あり)に委託させるべきである。
自己評価点		14		

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公益平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること			
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか			
	◎町民の理解が得られる事業であるか			
合計(最高4点)		0		

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性				
			拡充	維持	縮小	廃止	
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	高齢者(交通弱者)が温泉を利用するために始まった事業であり、利用者のほぼ全員が温泉利用者でコミュニティバスとは言い難い。各公共施設や医療機関・商業施設など巡回する、利便性の向上と利用増に繋がる運行へ、今後も協議を深めていきたい。	事業の方向性				○
			コスト	廃止	縮小	維持	拡充

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 本来の巡回バスの運行までは、現状維持 交通弱者の生活支援のためにも全域に拡充すべき より利便性及び収入増を目指してほしい。 温泉利用者等にとって、大変重要である。 対費用効果は十分考慮しなければならないが、スクールバスや町内名所を結ぶ巡回バスの運行を十分検討してもらいたい。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	拡充	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	ボランティア・NPO法人の支援			基本目標	町民が参画できる体制づくり			
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	河野 真史	評価者	壺岐 昌敏	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	NPO等の育成支援を行い、これまで行政のみが行ってきた事業の一部を協働により実施することにより、住民サービスの向上と効率的な行政運営を図る。						
	対象(誰を・何を)	町内NPO等						
事業の内容	NPO法人設立認証等事務について県から権限移譲を受け、所轄庁としての事務を行う。また、制度に関する出前相談を県と共催し、NPO法人設立の支援を行う。 NPO等のまちづくりに関する自主的な活動を支援するため、「たかなべ未来づくり事業補助金(住民提案型予算事業)」を実施する。 NPO等の実施するイベント等への支援や情報提供を行う。							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		1,473	千円	25年度予算額		2,000	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	1,473	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.16	人	
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24	1,143		千円
			千円		地方債		千円		H25	436		千円
			千円		一般財源	2,000	千円		当事業の金銭的成本	H24	2,616	
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25	2,436		千円
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	たかなべ未来づくり事業補助金						
	補助対象	事業提案団体			補助金要綱	たかなべ未来づくり事業補助金交付要綱						
	24年度	補助額	1,473	千円	補助の形態	臨時的補助	H25年度補助額	2,000	千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	1,834	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
	決算額に占める割合	80	%									
	繰越額	0	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	NPO法人数	新たな公共の担い手としてのNPO法人の増加を目指したが、設立された法人はなかった。									
	2	未来づくり事業補助金採択事業数	NPO等の公共性の高い自主的なまちづくり活動を支援することを目指し、3事業を採択し事業実施した。									
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	出前相談回数	NPO法人制度に関する出前相談を実施し、NPO法人設立の機運を高める。									
	2	活動状況広報回数	活動状況を広報することにより町民参画を促進するとともに団体のやる気を高揚させる。									
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項	
成果指標	NPO法人数	目標値	8	10	10		
		実績値	9	9			
		達成率	%	112.5%	90.0%		
	未来づくり事業補助金採択事業数	目標値	事業	-	4		4
		実績値		2	3		
		達成率	%		75.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
活動指標	出前相談回数	目標値	回	4	5	3	
		実績値		6	4		
		達成率	%	150.0%	80.0%		
	活動状況広報回数	目標値	回	25	25	40	
		実績値		29	40		
		達成率	%	116.0%	160.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	出前講座			基本目標	広報公聴活動の充実				
担当課(局)・係	政策推進課	情報政策係	記入者	金城 朋子	評価者	壺岐 昌敏	開始年度	H19	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	町の各種政策や制度の町民への周知と理解を深め、町民の意見や提言を活かしたまちづくりを推進する。							
	対象(誰を・何を)	町内在住または町内在勤の方							
事業の内容	町内在住または在勤している10人以上で構成された団体やグループを対象に、町職員等が講師となり、町民が聞きたい内容の講座を開催する。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		0千円		25年度予算額		0千円		25年度予算額中一般財源の割合				%
支出の内訳		千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	0.11	人	H25	0.11	人
		千円		県支出金	千円	職員人件費	H24			786	千円	
		千円		地方債	千円		H25			800	千円	
		千円		一般財源	千円	当事業の金銭的成本	H24			786	千円	
		千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25			800	千円	
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名							
	補助対象				補助金要綱							
	24年度	補助額		千円	補助の形態		H25年度補助額		千円	終期		
		交付団体の決算額		千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
決算額に占める割合			%									
	繰越額		千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	申込件数	町政を周知する機会を増やすことで、関心を高めることができる。									
	2	受講者数	受講者数の増加に伴い、町民の町政などへの関心や理解を深めることができる。									
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	メニュー数	既存のメニューを見直し、講座の統合などを行うことで、一つの講座でより充実した内容となった。									
	2	広報活動	町内全戸配布の「お知らせたかなべ」に3回掲載し、「広報たかなべ」でも1回取り上げた。									
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	申込件数	目標値	30	40	40	
		実績値	46	41		
		達成率	%	153.3%	102.5%	
	受講者数	目標値	600	800	900	
		実績値	1,099	1,197		
		達成率	%	183.2%	149.6%	
活動指標	メニュー数	目標値	40	40	37	
		実績値	40	37		
		達成率	%	100.0%	92.5%	
	広報活動	目標値	2	3	3	
		実績値	3	4		
		達成率	%	150.0%	133.3%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	出前講座	担当課(局)	政策推進課
-------	------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	町政や各種制度の町民への周知と理解を深めるため、さらには直接町民の意見を聞くことができる、とても有効な場となっており、町が実施すべき事業である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	「制度についてよく理解できた」「今後の生活に活かしていきたい」という感想が多く、町政や各種制度への周知・理解が図られている。
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	出前講座の受付から実施まで、職員がすべて行っており、費用対効果は大きい。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	町職員だけでなく、町民の方に講師を担当していただき講座の幅を広げるなど、今後検討の必要がある。
自己評価点		15	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	町民が自ら知りたい事項や町の各種政策や制度などを職員が直接分かりやすい言葉で伝えるものでその効果は大きいと考える。一方で町民からの意見や提言を伺うことで町づくりの政策に活かされている部分もあり、講座内容の充実や講座の周知を図りたいと考える。	○			
			事業の方向性			
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・利用メニューに偏りがありすぎる ・活用されている部分が偏っているも、講座メニューは拡充したい ・住民に浸透してきた事業でもあるので、このまま継続して欲しい。 ・健康づくり、防災等に集中している。他の項目の利用促進も必要。 ・申込講座が偏っており、メニュー見直しが必要ではないか。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	拡充	事業
コスト	維持	コスト